

## プラナリアの住みやすい環境をつくる

### ～小改造！石屋川・ビフォア→・アフター～

飛田美樹・末岡真里奈・谷本紗希・藤原尚子（兵庫県立御影高等学校）

#### はじめに

本校の総合人文コースにおける学校設定教科、グローバルスタディ・環境科学セミナーでは石屋川の生物調査を今年度から実施しています。4月に予備調査を行ったところ、水質階級Ⅰ（きれいな水）の環境指標生物とされるプラナリア（ナミウズムシ）を発見しました。国道沿いの、外観も決して美しくない石屋川でプラナリアが見つかった事に私たちは驚きました。そこでプラナリアをさらに増やすため、今回は生息環境を調べることにしました。これからも石屋川の水質をプラナリアの繁殖から見守っていきたいと思います。

#### 調査方法

##### ①観察場所

国道2号線と石屋川が交わる南側、約50メートル内を調査対象とし、流域を6班に分けて調査

##### ②観察日

平成23年5/23、5/30、6/6の計3回

##### ③調査内容

5/23 個体数調査、生育環境調査、堰の設置

5/30 個体数調査、生育環境調査、堰の設置  
フードトラップの設置

6/6 個体数調査

##### ④フードトラップ

ペットボトルを半分に切ったものにハム1枚、ゆで卵1個を入れ、口が上流を向くように砂に埋めて石で固定した。



#### 結果

初日の6か所の調査結果より、プラナリアは流速の早い場所を好まない事が判明しました。そこで石を組んで堰をつくり水流が緩やかになるように工夫しました。その結果、1班を除いた5班全てでプラナリアの増加が見られました。次に石の大きさ、表面の状態と生息状況を確認したところ、長さ10センチ以上で平面部を含む石に多く生息する傾向が見られました。（図1）そこで堰を構成する石を吟味して再度緩やかに水が流れるように調整を行い、さらにフードトラップを設置して比較したところ、大雨の後に関わらずどの班でもプラナリアの増加が見られました。特に餌を設置した班では劇的な増加が見られました。

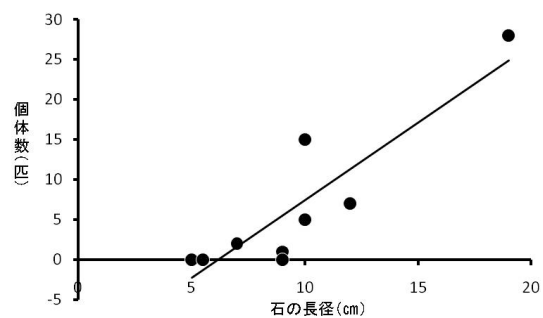


図1. 石の大きさと個体数の関係

#### まとめ

石屋川は六甲山を水源とするため、距離が短く傾斜があり、少しの雨で激流と化します。しかし今回の調査で、雨で流されないような石の大きさ、組み方を工夫すれば沢山のプラナリアの繁殖が可能であることがわかりました。今後は季節を変えて調査を継続したいと思います。